

(代表質問)

質問日	令和 7 年 6 月 5 日 (木)			質問方式	分割方式		
質問順位	1	会派名	自由民主党浜松	議席番号	29	氏名	平野 岳子
表 題	質 問 内 容						答弁者の職名
1 これからの行財政運営について	少子高齢化に伴う扶助費の増大、インフラの老朽化等の課題に直面する中、限られた財源をいかに効率的・効果的に活用していくかが重要である。 持続可能な行財政運営のため、以下伺う。 (1) 中期財政見通しの財政需要増大における収支不足への対応について、見解を伺う。 (2) 長引く物価高騰に対する支援について伺う。 (3) 持続可能な財政運営を行うためには、新たな財源の確保や多様な資金調達が求められる。今年度新たに資金管理担当課長が配置されたが、具体的な取組や方針について伺う。 (4) トランプ関税による、製造業や農業を主要産業とする本市への影響の認識を伺う。						中野市長 ” 鈴木財務部長 中野市長
2 人口減少に勝ち抜く浜松について	全国の地方都市が人口減少という未曾有の危機に直面する中、本市も例外ではない。「選ばれる浜松」として勝ち抜くには、対象年齢層のターゲットを決めることも必要であり、職員一人一人の営業マインドに覚悟と戦略が必要と考える。 そこで、以下伺う。 (1) 「浜松から地方創生」を進めるうえで、市長公室の果たす役割について伺う。 (2) 東京事務所における首都圏の若者に対するアプローチの成果と今後について伺う。						中野市長 島田市長公室長
3 やりがいのある職場づくりについて	地方創生を促進して本市の魅力を引き出していくには、職員のモチベーションを高め、やりがいのある職場づくりを進めていくことが、結果として快適な市民生活に直結すると考え、その施策をこれまでも提案してきた。 「所属の枠を超えて、新規プロジェクトに加わる等、新たな発想で政策立案のできる職員を育成する」と回答された令和 5 年 9 月定例会での私の質問に対し、どのように取り組んできたのか伺う。						田中総務部長
4 カスタマーハラスメントへの対応について	昨今、公共・民間を問わず、職員や従業員に対するカスタマーハラスメント（カスハラ）が大きな社会問題となっている。職員が安心して業務に従事できる環境を整備することは市民サービスの質を維持・向上させる上でも極めて重要であり、また地域経済を支える中小企						中野市長

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	業・小規模事業所を守る観点からも、自治体として支援や啓発は必要であると考え。東京都の条例制定を皮切りに、静岡県でも動きがある。 そこで、今後の本市の取組を伺う。	
5 合併 20 周年を迎えるこれからの浜松について	本市は、7 月 1 日天竜川・浜名湖地域12市町村合併20周年を迎える。この節目を契機に、各地域の特性を一層育む機会とすることが重要と考える。 そこで、以下伺う。 (1) 合併20周年に対する市長の思いを伺う。 (2) 合併20周年記念事業の具体的な取組について伺う。	中野市長
6 世界からの投資の呼び込みについて	グローバル経済の中で自治体の役割は「内向きの行政サービス提供」にとどまらず、積極的に地域の魅力を発信し、海外からの投資や人材を呼び込む戦略的な取組が必要と考える。 中野市長は、インタビューにて「世界に開かれたまちを目指す」とし、「人や投資を呼び込む浜松へ加速する」と答え、その手腕に期待するところである。 そこで、以下伺う。 (1) 世界への情報発信を強化し、世界からの投資を呼び込むことについての市長の考えを伺う。 (2) 世界から本市への投資の呼び込みについて、具体的な取組を伺う。	中野市長 北嶋産業部長
7 教育長としての決意について	本年 4 月、新たに野秋教育長が誕生した。本市の子どもたちが将来に希望を持ち、自らの可能性を伸ばせるような教育環境の構築に期待している。 教育の変化は著しく、課題が数多くある状況の中、本市の教育に対してどのように取り組んでいくのか、教育長の決意を伺う。	野秋教育長
8 「全国に誇れる特徴ある学校給食」の実現について	令和 6 年度、食材費高騰による打撃を受け、学校給食のエネルギー量が国の基準値を下回ったことは由々しき事態であり、現場にも深刻な影響を及ぼしていると聞いている。栄養価やメニューの質や量を維持するための努力が限界に近づいていると考えられる。 このような時だからこそ、令和 5 年市町村別農業生産額第 6 位を誇る農業都市でもある本市独自の創意工夫をもって、「日本一美味しい給食」を目指すことは、市の魅力や教育水準の発信にもつながる。 さらに、教育施策の中で、給食を活用した不登校支援の一環として成果を上げている他自治体の例もある。 そこで、農林水産担当部局との施策の連携による「全国に誇れる特徴ある学校給食」を実現すべきと考える	野秋教育長

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
9 「安全・安心のまち・浜松」の実現に向けた交通安全への取組について	が、見解を伺う。 「浜松市交通事故ワースト1脱出作戦」から10年が経過し、開始当初より人身交通事故件数が減少したことは、様々な取組の効果の表れと評価する。 これまでも通学路や生活道路対策をはじめとした幼児・児童・生徒等を守る対策は実施されてきたが、事故を未然に防ぐ対策の強化は極めて重要であり、ハード・ソフト両面の更なる取組が急務である。 市民がいつまでも安全で安心して暮らし続ける上でも、交通安全の推進は必要不可欠であると考えている。 そこで、これまでの交通安全に対する取組と評価、今後の取組強化について、市長の意気込みを伺う。	中野市長
10 旧はまホール跡地の活用について	令和元年に廃止された旧浜松市教育文化会館（以下、旧はまホールという。）は、昨年度から解体が始まり、その跡地については、いよいよ次のステップへ進む状況になりつつあると考える。 中心市街地の好立地であるため、市民はもちろん、市外からの誘客も期待できる拠点となり得る。また、浜松駅、旧はまホール、浜松城のトライアングルは回遊性があり、人の流れが大きく生まれる好機とも考えられる。 これまで、美術館の新設を望む声を多く聞いてきた。市政 60 周年を記念して県下初の公立美術館として建設から 50 年以上が経過し、他市の美術館と比べても常設展示が無い、ゆっくりくつろげるカフェが無い等々、施設の機能面の課題解決には限界があり、拡充が望まれている。これまで我が会派議員も幾度も質問をしてきた。 今こそ 80 万人都市にふさわしい規模や機能をもった美術館が本市には必要であると考えている。しかしながら、拡充や建て替えにあたっては、浜松城公園内ならでの課題もあると聞いている。 そこで、以下伺う。 (1) 旧はまホール解体の進捗について伺う。 (2) 中心市街地の一画である当該地の有効活用を図るべきであり、その課題や方向性について伺う。 (3) 旧はまホール跡地への「新美術館建設への検討」について、可能性を伺う。	中野市長